

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4672900133
法人名	社会福祉法人 九十九会
事業所名	グループホーム秋光園
訪問調査日	平成21年11月20日
評価確定日	平成21年12月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672900133
法人名	社会福祉法人 九十九会
事業所名	グループホーム秋光園
所在地	日置市東市来町長里360-1 (電話)099-274-3770
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年4月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 14人, 非常勤 5人, 常勤換算 16.9人

(2)建物概要

建物構造	A棟:木造平屋建て B棟:鉄筋コンクリート造り 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湯田内科病院 田崎歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、訪問介護事業所および居宅介護支援事業所等に隣接しており、地域の高齢者福祉の拠点となっている。自然環境豊かな丘の上に建てられ、敷地内のグラウンドは地域に開放されてグラウンドゴルフの練習に使われるなど、住民の憩いの場となっている。秋祭りや避難訓練など、住民の参加や協力を働きかけており、地域との交流を深めている。職員は、利用者が毎日を笑顔で過ごせるようにとの思いで日々のケアに取り組み、常に問題意識を持ちながら、さらなるサービスの質向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型サービスを意識した理念に見直しを行っている。 ・思いや意向の把握については「気付きメモ」を全職員が持ち、利用者の小さな変化を書き留め、会議の中で話し合い思いを把握できるようになっている。 ・重度化や終末期に向けた指針を定め、ご家族への説明を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>管理者は適切に項目の内容が理解できるように説明をしながら、ユニット別に全職員が参加して自己評価を行っている。前回の外部評価で指摘された項目のほかにも、自己評価で上がった項目について職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>地域住民や行政担当者に加えて、全ての利用者のご家族に声かけをして、運営推進会議への参加を働きかけている。ホーム便りを配布しての近況報告や、資料を使つての利用者の状況報告、欠席者への議事録配布など、会議が分かりやすく有意義なものとなるように配慮している。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>面会時や家族会、行事の際などにご家族へ声かけをし、意向の把握に努めている。気軽に意見を出せる関係が出来ており、出された意見は早急に対応して結果をご家族に報告している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町の文化協会に加入し、年に1回行われる文化祭に作品を展示している。法人合同で秋祭りを開催し、来場した地域住民にホームを見学してもらい、グループホームを知ってもらう機会を作っている。また、避難訓練の参加や相談事など、自治会長や民生委員などの協力を得ながら、お互いに行き来できる関係が築かれている。</p>

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人ひとりの意見を基に話し合いの結果、新しく地域密着型サービスとしての具体的な理念が作られた。理念には利用者、職員がお互いに笑顔で過ごすことが出来るようにとの思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の思いが込められた理念となっている為、常に意識をしながら日々のケアに反映することが出来ている。また、職員会議などでも、理念に添ったケアが行えているかを振り返りながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化協会に加入し、年に1回行われる文化祭に作品を展示している。法人合同で秋祭りを開催し、来場した地域住民にホームを見学してもらい、グループホームを知ってもらう機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は適切に項目の内容が理解できるように説明をしながら、ユニット別に全職員が参加して自己評価を行っている。前回の外部評価で指摘された項目のほかにも、自己評価で上がった項目について職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や行政担当者に加えて、全ての利用者のご家族に声かけをして、運営推進会議への参加を働きかけている。ホーム便りを配布しての近況報告や、資料を使っての利用者の状況報告、欠席者への議事録配布など、会議が分かりやすく有意義なものとなるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と気軽に相談し助言がもらえる関係を築いており、スムーズな運営やサービスの質向上に努めている。ホームで行うゾーメン流しに市の担当者を招くなど、こちらから出向くだけでなく、お互いに行き来できる関係となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月作成される便りでは、行事や新入職員の紹介などを掲載し、ホームの近況が良く分かるように工夫している。また、利用者毎に職員がコメントを書き添え、その方の状況が分かるように配慮している。金銭管理は年に2回、ご家族の面会時に報告を行い了承を得るようにしている。遠方のご家族には郵送で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、行事の際などにご家族へ声かけをし、意向の把握に努めている。気軽に意見を出せる関係が出来ており、出された意見は早急に対応して結果をご家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務体制の調整や職員の話しを充分に聞くことで、職員の負担を少なくする環境を整え、離職を最小限に留めることが出来るように努めている。やむを得ず離職し、新しい職員が入職した場合には、出来るだけ早く仕事に慣れるように、指導する担当職員を決めて対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム研修会を2ヶ月に一度行っている。研修計画を作成しており、管理者は職員のスキルに応じた研修参加を促している。また、積極的に多くの職員が資格取得に取り組み、独自に勉強会を開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区グループホーム連絡協議会に加入し、地域の同業者とのネットワーク作りを行っている。また、他事業所の管理者と、お互いの運営推進会議へ出席し合うなどの活動を通して、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、ご家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気を知ってもらった上で入居を決めるようにしている。本人の見学が困難な場合には、入院中の医療機関や在宅で利用している通所サービス時に面会に出向き、関係職員から情報を得て、本人と顔見知りの関係を築いた上で、スムーズにサービス開始が出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な作業を行う過程で、利用者から教えてもらう場面を作るように心がけている。職員の側からの一方的な支援にならないように、利用者の状況に応じて出来ることを見極め、可能な限り本人にやってもらうようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが「気付きメモ」を持ち、表情の変化や利用者の思いを書き留めるようにしている。「気付きメモ」を導入してから、利用者の小さな変化を感じ取ることが出来るようになり、より利用者の思いに添ったケアができるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族とスタッフが参加した担当者会議を開催し、話し合われた内容を基に介護計画を作成している。受診時にはかかりつけ医の意見を聞き、必要に応じて介護計画の中に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回各ユニット毎にモニタリングを行い、介護計画に添ったケアが実践できているか確認している。病状や身体状況の変化に応じて、その都度介護計画の内容を変更し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援や理美容室への送迎など、利用者やご家族の希望に応じて、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望に応じてかかりつけ医を決め、職員が通院の支援を行っている。かかりつけ医との連携を図りながら、病状の把握やご家族への連絡を行い、安心してホームでの生活が送れるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針と終末期の指針を定め、職員間での話し合いを行い方針を共有している。また、本人およびご家族にも指針の説明を行い、意向を確認して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対して、個人情報適切に取り扱われるように、入職時に管理者が守秘義務について説明を行っている。トイレや洗面台が居室にあり、排泄介助や口腔ケアにおいてもプライバシーが確保しやすい環境になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、利用者一人ひとりの体調や希望に応じて、可能な限り臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気を感じることが出来るように、職員が献立を考えるのではなく、利用者と一緒に季節の食材を取り入れながら献立を立てるようにしている。利用者の力量に配慮しながら、職員と一緒に調理や配膳を行う姿が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を目安に入浴日を設定しているが、利用者の希望に応じて予定された日以外でも対応できるようにしている。入浴が定期的に行えない場合には、声かけするスタッフの変更や時間を置いての声かけ、言葉かけに配慮しながらスムーズに入浴が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ごみ出しや毎朝のカーテン開けなど、日常的な事に役割を持ってもらうことで、ホームの一員として張り合いのある生活が送れるように配慮している。敷地内の畑で野菜を育てており、実りの時期には職員と利用者が一緒に収穫を行い、喜びを感じる機会となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにあるグラウンドへの散歩や物産館、スーパーへの買い物など、日常的に外出する機会を作り、屋内だけで毎日を送ることがないように努めている。また、季節の行事や外食にも出かけており、利用者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに対応している。玄関にはセンサーを設置しているが、センサーだけに頼ることなく、職員同士で声かけをしながら利用者が安全に暮らすことが出来るように連携を図っている。利用者がホームを離れた際には協力がもらえるように、地域住民にも働きかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体とホームのみの避難訓練を年に1回ずつ行っている。また、訓練には地域住民の参加もあり、協力を得られる体制が整っている。災害時の連絡網を作成しており、職員や地域住民へのスムーズな連絡体制を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は個人別に介護日誌に記録しており、必要な量が確保できているか把握できるようにしている。職員と利用者が一緒になって献立を作るようになり、食材にも工夫が見られる。		栄養士のアドバイスを受けることが検討されているので、さらに栄養バランスに配慮した食事の提供が実現することを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には椅子やソファが置かれ、思い思いの場所で過ごすことが出来るように配慮されている。季節に応じた飾り付けもあり、季節を感じる事が出来るように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物の持込を本人、ご家族に声かけて、過ごしやすい生活空間づくりを働きかけている。居室によっては、排泄チェック表やポータブルトイレが、日常的に目に付きやすい位置に設置してある。	○	必要時以外の排泄チェック表やポータブルトイレの設置場所を検討し、置かれていることが日常的にならないように配慮していただきたい。